

平成 14 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 最終処分場の廃止に係る安定化指標に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>処分場の後の利用等実施の段階を考えると非常に難しい課題かと思いますが、多くのファクター(影響)を考えて計画を進めてください。</p> <p>測定項目については、今後もなお検討の余地があると思う。</p> <p>必要であるが、用いようとする手法やアプローチに新規性、独創性が弱い。</p> <p>埋立廃棄物との関連にも重点を置いて欲しい。</p> <p>行おうとしている研究の独自性として何を主張するのかを明確にされたい。現在の記載内容は、一般的に指摘されていることと同じレベルであるように見える。</p> <p>緊急的な課題である。普遍的なデータとして利用できるような整理を望みたい。(土地利用のリスク評価も念頭に置くことができればなお良い。)</p> <p>緊急に解決しなくてはならない課題のため、研究の継続と緊急性が必要と考える。</p>	<p>処分場の跡地を何に利用するか、そのメニューにより、安定化の判断項目や基準が異なってよいと考える。例えば人の出入りがほとんどない雑木林、資材置き場など、人の出入が多い公園、駐車場など、地盤の掘削作業を伴う住宅の建設など、跡地利用計画に対応させた判断基準について今後検討が必要と考えている。</p> <p>浸出水に係る廃止基準の40項目が排水基準そのものだが、長期にわたるモニタリングの結果から、安定化の過程を判断するための調査項目を別途補足する必要があると考えている。焼却灰の処分場では塩化物イオンが有力な指標だが、廃プラスチック主体の処分場では、酸化防止剤、可塑剤、紫外線吸収剤等のプラスチックの添加剤等が塩化物イオンに代わるよい指標になる。これは、今までにない新しい事実であり、基準作りに役立つと考えている。</p> <p>ご指摘のように、埋立廃棄物との関連を明らかにすることが重要と考えている。得られたデータを普遍的なものとして利用するためには、埋立物の種類と量、埋立地の構造、湧水の有無等の処分場の履歴を把握することが必要。最終処分場の履歴等の把握について、引き続き取り組みたいと考えている。</p> <p>処分場浸出液の水質から安定化をみるためには、10年単位の長時間がかかる。そのなかで、県内の処分場で起きる緊急的課題に対応しており、これらの課題を解決するため、リスク評価の導入も視野に入れる必要があると考えている。</p>